

産業常任委員会
管内視察(意見交換会)
報告書

産業常任委員長 井端 浩二

産業常任委員会では7月31日に管内視察を行いましたので報告します。

* 飛騨市ビジネスサポートセンター及び商工会、会議所との意見交換

昨年度から始まった「ビジネスサポートセンター」の伊藤慎吾センター長からこれまでの活動・実績報告を受け、商工会や会議所からは新型コロナウイルスの支援策等について報告を受けた。

昨年度は118件の相談があり、相談内容は経営、創業、新事業展開の相談がほとんどで、地区別では古川地区が多い。それなりの実績を挙げていると思われる一方で、来てほしいターゲット層である30〜40代の経営者の来訪がなく今後は、若手経営者にビジネスサポートセンターの活動内容の周知の必要性を感じる。また、神岡のよろず支援とも連携しながら今後のハイパーカミオカンデ計画もあり、

神岡での周知と事業展開を模索していくことも大切ではないか。神岡商工会議所、古川町商工会は新型コロナウイルスによる資金繰りや補助金の支援や相談にご尽力頂き感謝するとともに今後も市と連携しながら会員はもちろん、会員以外の経営者に対する支援もお願いしたい。

* 飛騨市観光協会との意見交換

新型コロナウイルスのため主催するイベントがほとんど中止になり、観光客の入込数、宿泊数も激減しているため宿泊、観光業は大変厳しい状況にあり、本年度から運営するまつり会館も新型コロナウイルス禍で期待はできない。

インバウンド(訪日外国人客)も数年期待できないため、着地型旅行提案として観光資源の開発と利用に努めりピーターへと結びつくおもてなし活動の推進や観光誘客宣伝の強化、まつり会館の運営管理、広域連携の強化が必要としている。また、近年会員数も減少しており会員の拡充も必要である。議会としても観光資源の開発や誘客宣伝、観光施設の連携など支援していきたい。

* ハイパーカミオカンデ計画に係る市の役割

ハイパーカミオカンデの今後の計画の説明を受けた。6月より地質調査が始まり、年度内にはアクセストンネルと地下空洞の設計及び掘削準備に入る。近いうちに優先交渉権を得るゼネコンが決まるようである。そうなると工事関係者の出入りが始まり、市内での滞在需要が出てくる。また、研究者への住環境の整備も必要になると思われるので、行政と民間企業や各種団体が連携してこのチャンスを最大限に生かすことが重要になってくる。期成同盟会や関係者による国、東京大学、ゼネコン等への要請活動の必要性を感じ支援して行きたい。

* 小径木広葉樹の新しい価値の創造

「小径木広葉樹の新しい価値の創造」についての取組についての説明を受けた。飛騨市は93・5%が森林でそのうち68%が広葉樹で占めている。そのほとんど95%が安価なチップの材料として流出しており、家具等に利用されているのはわずか5%である。また、市内の広葉

樹の多くはミズナラやブナであるが平均胸高直径26cm程度で、家具等に使用されていないのではなく、一般的に家具等に使うことができないのである。広葉樹を地方創生のパートナーにするために①価値ある広葉樹を育てる②広葉樹小径木の新しい価値を創造するという2つの柱で使えないといわれている広葉樹小径木にアイデアとネットワーク等を活用しながら新しい価値を吹き込みチップなどより高い価格で販売できるように取り組んでいる。6月に飛騨地域の関係事業者が集まって「飛騨市広葉樹活用推進コンソーシアム」が設立され、川上(素材生産者)川中(製材事業者)川下(木製品製造者等)が連携して広葉樹の活用を研究していく事に大いに期待をしたい。



産業常任委員会 意見交換会

編集後記

9月議会が終わり、私達一年生議員にとって初めての決算特別委員会の審査を致しました。市民の皆様からの大切な税金の使い道です。飛騨市がより良くなりますように確かな市の政策が必要です。そのためにも、議会として市民の現状を知り、その結果がきちんと市民の生活に反映されているのかと確認しながら、これからも皆様の声を市政に届けてまいります。また、今年の「市民と議会との意見交換会」は新型コロナウイルス対策を取りながら行い、大勢の方に参加をしていただきました。

飛騨市をより良くするため、市民の皆様からさまざまな熱いご意見をいただきましたことを、心から感謝を致します。まだまだ、コロナ生活に不安もありますが、不安からは決して明るく建設的な未来は生まれません。明るく前向きに、積極的な未来像を描き続けるその先に、活気が取り戻されるのではないかと思います。

(小笠原 美保子)